

# 大災害への備えについて



森 定雄 議員

東日本大震災から5年経った今年、4月14日から16日にかけて、九州の熊本地方において最大震度7という地震が発生した。あれから5か月が経ち、徐々に余震は減ってきているが、現地では、つい先日も震度5弱の地震があったばかり。この度の地震では、内陸を震源とした地震ということもあり、津波被害は起こらなかったが、山間部で起きた土砂災害は深刻で、その後も震度6以上の地震が頻発するなどし、二次災害による被害も拡大した。このような災害を回避するには、十分な備えが必要になって

くる。

①現在の本町の各地域の避難路、避難場所の整備状況は。

②津波や洪水等による危険が切迫した状況において、住民等が緊急に避難する、一次・二次避難所の確保、準備等は。

③災害の危険性がなくなるまで住民等が一時的に滞在することを目的とした長期避難所の用地や、建物等の準備・計画は。

④毎年行う計画になっている町内の避難訓練、今年の前年度は。

⑤地元企業や技術者などと提携して災害協力協定を結び、災害時のドローンを活用しては。

答 福井町長

③応急仮設住宅の建設用地については、候補地の検討を行っているが、高台に適地が少なく苦慮している。

今後、土地所有者等の調査を行い協議を始めた。応急仮設住宅については、現時点で確保はできていないが、地域防災計画の中で種類や規格は定めており、必要に応じて県と協議することとなる。県は社団法人プレハブ建築協会と供給協定を結んでおり、円滑な供給を図れる体制を取っている。

④12月に実施する予定。今後、地区ごとに防災計画の策定をお願いし、避難訓練も地区ごとに行うこととしたので、より多くの方の参加を期待している。

⑤現時点では、改正航空法などの規制があることなどから、今後必要に応じて、専門団体等と災害時応援協定を締結するなどして、災害時に有効に活用できる体制の構築を図りたい。

## 一般質問



28年9月まぜの丘で実施した徳島県総合防災訓練

答 宮内総務課長

①毎年度、避難路の舗装、手すりの設置、防犯灯設置等、避難路の整備に努めている。今年度は関地区と大谷地区の2箇所の避難路の舗装を予定している。

②確保状況については、一次避難所は、建物・高台・屋外等を含め87箇所。指定避難場所、二次避難場所につ

いては、屋内に避難できる建物になるが39箇所ある。準備については、備蓄等のスペースが確保できる避難場所については、物資、食料等の備蓄を随時予定しており、平成27年度については、福祉避難所3箇所へ要援護者用食料等を配備した。